学校番号	１００１

令和８年度　国語科

教科	国語	科目	怪異の日本文学	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

昔から今まで、怖い話や不思議な話など、「怪異」をテーマにした話は途切れたことがなく、現在の娯楽においても「妖怪文化」が頻繁に登場するなど、日本文学・文化は常に「怪異」と共にありました。この授業では、そのような古今の怪奇文学・幻想文学・妖怪文化を取り上げ、日本人が受け継いできた精神世界の奥深さ、感性の豊かさを知ることで、文学を通じて個人の知的好奇心の幅を広げ、積極的に「知る」姿勢、「考察する」姿勢を育むことを目標とし、様々な「怪異」文学に触れていきます。

2　学習の到達目標

（１）我が国の伝統的な言語文化に対する理解や関心を深めることができるよう、一貫したテーマに基づく現代文学、古典文学を通読、読解してその面白さを理解する。
（２）ある物事の背景にある事象にまで目を向け、探求することで客観的な考察を深め、またそれに対する自分の意見や感性を、言葉による表現で相手に伝えることができるようにする。
（３）日本文学における「怪異」を通じて、日本古来の文化や物語に知的好奇心を持ち、我が国の言語文化の担い手として、豊かな感性と知識で社会にかかわろうとする態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a　知識・技能	b　思考・判断・表現	c　主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・「怪異」「妖怪」「口承文芸」様々な言葉の定義を正しく理解し、それらが指す意味だけでなく、言葉一つ一つの使われ方、定義の変遷についても正しく理解する。 ・「妖怪文化」を考察するにあたり、民俗学や文化人類学などの学問の調査方法や、検証方法について学ぶ。	・古今の文学を正しく読解することにより、その作品内でテーマとなっている事柄の意図や背景を正しく理解する。また、理解した内容に対しての私見を言葉で表現し、授業の中で共有する。 ・特手のテーマにおける調査考察を行い、それを発表資料としてまとめ、プレゼン会を行う。相互評価により、表現力の向上をはかる。	・「怪異」という幅広いテーマに対して、授業で取り扱う以外の内容に対しても興味を持ち、自身で調べたり、考えたりしたことを、コミュニケーション・ペーパーにより共有する。 ・テーマに基づく文学作品に、積極的に触れ、それを他者に進めたり、面白さを紹介したりする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元の学習内容	単元の評価規準	評価方法		
			知(a)	思(b)	主(c)
前期	「妖怪文化」について知る。 背景考察の手順を学ぶ。 専門分野の知識を得る。 ［テーマ］「妖怪文化」 「妖怪文化入門」 「日本妖怪研究史」 「娯楽と妖怪」	a:「妖怪の定義」ほか、民俗学的、文化人類学的な語彙や定義について学び、知識を広げる。 b[読]:知識をもとに幾つかの対象についてその背景を実証的にと見とる。 c:授業の内容を広げ、自身の経験や知識に応用して考察を深める。	ワークシート プレテスト	ワークシート プレテスト	コミュニケーションペーパー 提出物
	調査研究を行う。 調べた結果を資料にまとめる。 発表・相互評価を行う。 ［テーマ］「妖怪文化」 「個人妖怪研究」	a:実証的な調査を行う上での方法や用語について知る。 b[話/聴]:調査成果について発表する。他者の発表を聞き相互評価する。 c:調査内容について全体の前で発表を行う。造詣の深い優れた発表を目指す。	ワークシート 調査研究	ワークシート 調査研究レポート 発表資料	ワークシート 発表 相互評価
後期	古今の文学作品の読解。 背景や周辺文化に目を向ける。 ［テーマ］「怪異の日本文学」 以下例 「昔話の中の鬼」 「古典文学の中の妖怪譚」 「江戸の妖怪文化革命」 「妖怪絵師を探る」 「『雨月物語』の恐ろしさ」 「小泉八雲『怪談』」 「明治の文豪たちの怪談」 「江戸川乱歩　幻想文学」	a:文学作品を正しく通読し、内容や背景を理解することができる。 b[読]:　作品の内容や解釈を踏まえ、他者の意見と比較することで、自分の内面世界をより充実させていくことができる。 c:　作中で象徴されているものを理解し、紹介されている文学作品に触れるなど、積極的に関心の幅を広げようとしている。	ワークシート	ワークシート	コミュニケーションペーパー 提出物
	総合的な「目に見えぬ世界」への魅力に対する造詣の理解。 ［テーマ］「現代の怪異文学」 以下例 「都市伝説の伝播」 「児童書に見える恐怖の編成」 「妖怪ブームの背景」 総括「怪異の魅力」	a:現代文学におけるジャンルそれぞれの表現の特徴をつかみ、必要な知識、読解手順を活用できる。 b[読]:現代文化に対する解釈を踏まえ、歴史的変遷や周辺文化との比較を通じて、見えてくるものを表現できる。 c:「何故それが面白いのか」という命題に対して答えを表現することで、その魅力を考察したり表現したりする術を養う。	ワークシート 定期テスト	ワークシート 定期テスト	コミュニケーションペーパー 提出物

※表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

※単元の評価規準[ｂ]について…括弧内には[　話／聞、書、読　]のどれか一つを記入して下さい。

※年間の各領域時間数

・話すこと／聞くこと　…　（　20　）時間

・書くこと　…　（　20　）時間

・読むこと　…　（　30　）時間